

その謎を知れば胸が痛む……

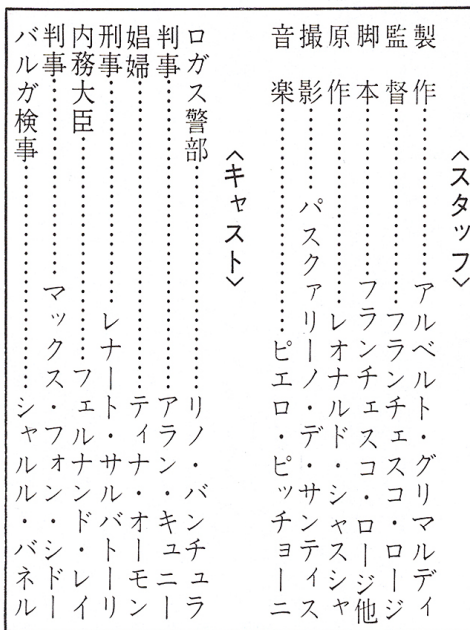
ジャスミンの花咲き匂うローマに
次々と起こる不気味な怪死事件！

◆妻も子も捨てた一人の刑事を
巻き込んで 哀しいまでに
心をゆるがす
衝撃のサスペンス！

ローマに散る

CADAVERI
ECCELLENTI

リノ・バンチュラ ■ レナート・サルバトーリ ■ ティナ・オーモン ■ フェルナンド・レイ ■ マックス・フォン・シドー
製作 アルベルト・グリマルディ ■ 監督 フランチェスコ・ロージ ■ 音楽 ピエロ・ピッチョーニ
原作 レオナルド・シャーシャ〈権力の朝〉新潮社刊



■カラー作品■

United Artists ユナイット映画

四ノ散る



「大統領の陰謀」「不毛地帯」と、現代権力政治の暗部、からくりを白日のもとにさらした傑作政治ドキュメントが軒を並べてヒットしている76年秋、迫真力・面白さにおいてこれら話題作を遙かに凌ぐ重厚な政治サスペンス映画がイタリアからやってきた。

76年度カンヌ映画祭審査員特別賞、ダビッド・ディ・ドナ
テロ賞二部門を獲得した問題作「ローマに散る」(原題：第一
級の死体)は、観客を不気味な現代政治状況の死角に導き、
その恐るべき現実に瞠目させること必至の衝撃の力作である。

ローマ郊外の三ヶ所の町で、イタリア司法界最高の大物三人が何者かの手により次々殺された。捜査に当たったローマ警察一の敏腕警部は、執拗なまでの足の捜査を展開し、遂に事件の核心に辿り着くもののその彼を待っていたのは、黒い権力機構の恐るべき魔手だった――。

「黒い砂漠」「コーザ・ノストラ」など、社会正義の観点から、見えざる陰謀・暴力に果敢な挑戦を試みてきたイタリアネオリアリズムの正統の後継者F・ロージ監督快心の一作。製作は「ソドムの市」のアルバルト・グリマルディ。レオナルド・シャスシャの小説「イル・コンテスト(対決)」をロージ、トニノ・グエラ、リノ・ジャンヌッツィの三人が共同脚色。音楽のピエロ・ピッチョーニ、撮影のパスカリーノ・デ・サンティスはともに最近のロージ作品に名を連らねている名手たちである。

そして、この作品最大の話題は、ヨーロッパ映画界屈指の演技派たちがくつわを並べていることだ。先ずフランス映画界のハード派 No.1 リノ・バンチュラを筆頭に、ベテラン、シャルル・バネル、「コンドル」の国際派マックス・フォン・シドー、「エマニエル夫人」のアラン・キュニー、「ソドムの市」の

パオロ・ボナチェリ、「フレンチ・コネクション」の悪党コンビ、フェルナンド・レイとマルセル・ボズフィ、それにレナート・サルバトーリ、ティナ・オーモンら興味津々たる顔ぶれが、ぞくぞくする娯楽サスペンスを形成している。

19××年イタリア。三人の司法官がローマ近郊3ヶ所の街で連続的に殺害された。被害者はいずれもイタリア法曹界最大級の大物たち。高まる世論を受けて、当局は事件の捜査をローマ警察随一の敏腕警部ロガスに委任した。私生活の上で人の恨みを買うような事実のない被害者たち。ロガスは、被害者たちが関与した裁判事件の判決、あるいは判決を下された被告たちが事件の重要な鍵を握っているのでは、と推理した。

被害者三人が共通に関係した裁判は三件。そのうち、妻殺し未遂の容疑で有罪を宣せられたクレスという男の存在が、ロガスの脳裏に大きくひっかかった。しかし、現在クレスの行方は杳として知れず、彼の家からは彼の存在の痕跡があとかたもなく消えていた。そうするうち、郊外でもう一人の判事が殺害された。彼もまたクレスの裁判に連座していた。世論の批難をタテに事件の早期解決をロガスに迫る警視總監と政府首脳。さらに首都でもう一人の判事が殺された。ロガスは事件の背後に巨大な陰謀のニオイを嗅ぎ始めた。幸い、今回の殺人では目撃者があった。事件直後の路上からスイス・ナンバーの白いメルセデスが走り去ったという。ロガスは直感でリシェス最高裁長官の身辺を危惧した。注意を促すため長官邸へ向かった警部がそこに見たものは、しかし思わぬ光景だった——！

有楽町
日劇前

二ユ一東宝
シネマ2

(571
1947